

横浜市小児科医会ニュース



No.34 2007年4月1日

時 言

「いじめ」に思うこと

横浜市小児科医会副会長 大西三郎

いじめが原因での自殺が相次いで報道され、いじめが想像以上に深刻化していたことがわかってきました。いじめは人間社会では無くならないものだと諦めてはられない事態になっていたのです。

伊吹文部科学大臣は子どもたちに、「弱い者をいじめるのは恥ずかしいこと、仲間と一緒に友だちをいじめるのは卑怯なこと、いじめられて苦しんでいる君は、一人で苦しまず、いじめられていることを話す勇気をもとう。」と異例の呼びかけを行ないました。また父母や学校と塾の先生、スポーツ指導者、地域の人々に対しても、「毎日少しでも言葉をかけ、子どもと対話して下さい。子どもの心の中に自殺の連鎖を生じさせぬよう連絡しあい、子どもの生命を護りましょう。」というお願いのメッセージを出しました。これらは学校医にも医師会を通じて伝達されてまいりました。

ここ数年、インターネットや携帯電話が普及して、いわゆるネット社会と呼ばれる状況になり、とても多くの情報が良否の判別を受けることなく、瞬時に広く伝わってしまう社会になっています。いじめもネット上に匿名をいいことに、下品で、卑劣で、情け容赦のない言葉を書きこみ、これでもかと人の心を傷つけ、弱い者を追いつめるようになされています。学校でのいじめには時に担任の教師までが加担していることがあり、どこにも行き場のない孤独感におそわれている子どもがいるのです。口惜しくて、哀しくて、淋しくて、耐えられない程つらい思いをした果てに自殺してしまうのでしょうか。ほんとうに胸が痛くなります。いじめを受けて苦しんでいるとき、「がんばって」などと言わないで、同情し、慰め、まず話だけでも聞いてくれるところがあれば、せめて死ぬことだけは防げるのではないのでしょうか。私達小児科の診療所もそんなところの一つになればと思います。小児科医会でポスターなど作って待合室に掲示したらどうでしょう。

ひどくいじめが起こらないようにするには、日頃から、家庭でも学校でも、どんな言葉や行動が人を傷つけるのか、卑劣で恥ずべきものなのか、またどんなことが格好よくて、勇敢で、尊敬されるのか、小さいときから教えて身につけさせなければなりません。そして他人を思いやる暖かく、やさしい心を育ていけるよう周囲の私達も気を配りたいものです。「親は子の鏡」なのです。

二つの提言

(32)

こころの問題について

こころの問題

横浜市立大学附属病院小児精神神経科
竹内直樹

自分の子どもに「こころの問題」が起きたとき、どこに相談をしてよいのか戸惑うことが多い。学校か、医療か、心理か、福祉か、警察か、どこに行ったらよいのか、どこまでは家族だけで見守ってよいのか判らない。また医療といっても、学校医、小児科医、児童精神科医、心療内科医、神経内科医、精神科医と分かれているので、どこで診てもらえばよいのか判らない。どう判断してよいのかむずかしいので、マニュアルを作って欲しいという要望もある。

相談や治療の各機関の常識的な棲み分けはあっても、その境界線を定めるのは至難である。そのために横浜市はこども家庭相談室を設置して、子どものSOSの入り口にしている。なぜなら「こころの問題」と一括しても、また同じ症状であっても、その背景が異なるためである。また相談する側の親子もさまざまであり、専門家側との関係性によって評価は異なる。相談は1回で終わることは少なく、継続される場合が多い。関わることで重要なことは、①アクセスのしやすさである。近隣であり、待たせないこと。②当事者の自己選択や、試行錯誤が許容されること。③相談は密室になるので、二次的に傷を深めることの回避。④個人情報を守られること、等である。

今回の調査では特筆すべきことがあった。子どものこころの問題に関心のある校医が多数を占めているとのアンケート結果である。校医ゆえさまざまな診療科に分かれるが、その科別の違いはなく関心が深いことである。学校に絡んだメンタルヘルスにおいて、学校

側から校医に子どもの情報の提供をしていただきたい。学校が抱え込まないことが重要であり、学校側からの積極性が欲しい。また校医は子どもの人権を無視したいじめや、虐待などが疑われた場合には、後方の関係機関に道筋をつけていただきたい。校医は専門性の有無にかかわらず、プライマリ医としてメンタルヘルス関連の話を聞いて、第三者評価のような整理をしていただきたい。問題を校医で留めるのではなく、複数の相談の流れを作り、その流れの経過を見守っていただきたい。家族で抱え込んだり、一人で苦慮したりすると、燃え尽き症候群に似て、深刻さを増して疲弊の悪循環に陥りやすい。たとえ専門家であっても、臨床経験の常識的な視点はきわめて重要である。

さらに地域のなかで子どもの心の問題をみしてくれる専門家も名乗りをあげていただいた。これもありがたいことだ。無理することなく、ほどほどの感じで、地域で子どものメンタルヘルスが支援できたらよい。その重要な一歩が踏み出せたような気がしたが、この調査の読後感である。

こころを育む 「子育て支援の小児科医から 送る青少年の健全育成」

済生会横浜市東部病院・

重心施設「サルビア」施設長

三宅捷太

この4月、10年間行政医師として母子保健・児童福祉などを通して子育て支援を行ってきましたが、ライフワークでもある障害児医療・療育に戻ることができました。今後ともご指導いただきますようお願い申し上げます。この一年間で最も思い出に残る事業として、旭区理容組合が主催した『「絆」人と人とのふれあい』感謝祭があります。幼児期からずっと大きくなるまで散髪をしている理容

師が、子どもの心をどうにかして見守り育てたいと実施しました。ヤンキー先生の義家弘介氏の「大人は子どもたちの未来に何ができるのか」と題する講演を中心に、児童養護施設出身の新進気鋭のシンガーソングライター松本哲也氏の弾き語りと、地域の民生児童委員・弁護士・小児科医・校長と理容師が語り合いました。その中で私の発言を紹介させていただきます。

思春期の子どもたちは自己肯定感を持つことに不安定な時期ではないでしょうか。自分はどんな人間なのだろうか、自分は認められているのだろうか、もっと特別な自分があるのではないだろうか、自分の体とところは普通ののだろうか、自分はつまらないちっぽけな存在なのではないだろうか、などがあげられます。また、それとは裏腹に自分を極端に過大視する別の自分の二面性がある葛藤しています。

この時期は額にある前頭葉の働きの成熟する過程の真っ最中なのです。人間が動物界の中で、初めて豊かにもらった理性の座で、情操・意欲・思考を司っていて、いわゆる人間性を表す部分です。この前頭葉は赤ちゃんでは細胞があってもつながっていません、自我の芽生えの3歳から本格的につながり始めて、脳の各部と密接に連携して情報を集めてしっかりと判断することができ始めるのが前思春期なのです。この時期が思春期のころの特徴ではないでしょうか。

そんな子どもを理解して、親子の話し合いが大切です。時には激しいけんかをしてよいはずですが、でも反抗期の子どもその場の反応とは異なり、親の言葉は子どもの心にしっかりと響いているはずですが、時をあまり経てずに親や大人は、子どもの欠点・問題点を指摘すると同時に、長所をしっかりと認めて『あなたは短所以上の長所を持ち、私たちに比べて大切な人である』と保証することが大切ではないでしょうか。そのため、親は子どもの「良いところ見つけ」をしっかりとする必要がありますと同時に、子どもが常に親や大人の日

常的な言動を見て手本としていることを認識しなくてはなりません。

実際、私たちが育ったころと比べて愛情豊かに育てられ、音楽をはじめとして演劇・美術など文化芸術性が高く、鋭い感性を持ち的確な表現力を持っています。私は10人兄弟の8番目ですので愛情に飢え感性は鈍く比較しようもありません。さらに、日本人固有の真面目さをしっかり受け継いで、期待に沿うよう最大の努力をしています。私たち大人にはできないパソコン・携帯・ゲーム機などの電子機器に長け多くの情報に対する判断能力の素晴らしさ、野山を走り回った昔と質は異なりますが世界に冠たる野球・スケート・水泳など運動に、多くの若者が全身全霊のエネルギーをかもし出し発散させています。

でも時代の変化で、子どものたまり場がありません。コンビニや駅にたむろするのが気になります。ケアプラザや町内会館、中学校にオープンスペースができないでしょうか、小さな子どもがいる場やご老人の多い場にも一緒にいられるスペースが出来るとよいと思います。そして地域で知っている子どもがいたら声をかけられたらよいですね。誰でもはじめは見知らぬ人、「元気にしているの」「遅いから帰りなさい」「かっこいい服じゃないの、小さいときの○○ちゃんもいいけど今の君もいいよ」など話ができるといいですね。

もう一つ提案があります。Death education のことです。流行のように「いじめ」「自殺」が繰り返されています。死が自分と周囲にどのような影響を及ぼすのか実感させる必要があります。今日明日にも、改めて知ってもらいたい緊急のことなのです。横浜市の統計では平成17年度に3万1千人生まれ、2万3千人死亡しています。その死亡の81%が65歳以上59%が75歳以上ですので、子どもにとって死亡が極めて遠い存在となっています。15歳未満の子どもの死亡は生後すぐも含めて166人に過ぎないからです。お子さんをなくされた家族の悲しみは大変に大きなものです。亡くなるということが本人にとって無となり絶対に戻れずリセットがありえな

いことと同時に、家族や友人に深い悲しみを与えるのだということを子どもたちに、どうしても知らせなくてはなりません。臨終の体が冷たくなるのを触らせ、茶毘から骨あげまで経験させ、死の持つ意味を論し知らせる Death education です。

いじめも辛いことがわかりますが、自殺死の連鎖や無軌道な性の解放による中絶・性感染症・不妊症を断ち切らねばなりません。この一環として如何に生きるか、生と性をどう

見るか感じるかを大人として知らせなければならぬと思います。従来から私がお願いしている、思春期のすべての子どもに生後6ヶ月未満の赤ちゃんを抱っこさせたいのです。セックスの結果であり、100%支援しなくてはならない、生命力の塊をとおして性を実感させたいのです。

地域ぐるみで、自然な形で思春期の青少年をはぐくむ、そんな横浜になればよいと期待しています。



タミフル未使用患児の異常行動発生事例報告

栄区医療機関において、タミフルを服用していない患者（14歳・中学2年生）が異常行動を起した事例が、3月27日（火）に開催された横浜市小児科医会役員会において報告された。

役員会では、本件をマスコミ関係に発表することが望ましいとの意見で一致し、翌日、市政記者クラブを通じて発表をした。

早速、報道関係者より取材申込が殺到し、3月29日（木）午後4時30分より、市役所内にある記者クラブ会場にて、急遽、水野会長による記者会見を行った。

この模様は、早速、当日のテレビニュース番組等で取り上げられ、また翌日の朝刊各紙でも大きく取り上げられた。

本会では、この発表と平行して会員各位に緊急の連絡通知も行き、注意喚起を促した。

以下、記者クラブへの発表内容並びに会員への緊急通知文、そして新聞記事抜粋を掲載します。

記者クラブへの発表内容

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者各位

横浜市栄区の医院に3月20日に来院した小児で、薬の服用がない14歳のインフルエンザ患者が、2階から飛び降りた事例を報告します。

症例：14歳男児（インフルエンザワクチン未接種）

3.20（火）午前に初診。

3.19（月）に発熱（38度前後）し、持続するために来院。少し倦怠感はあるが、他に症状なし。咽頭軽度発赤以外所見なく、全身状態も良好。インフルエンザ迅速試験：インフルエンザB型陽性。症状が軽いため、タミフル等の抗インフルエンザ薬は処方せず、解熱剤（アセトアミノフェン）のみ処方し、十分患児を観察するように話をして帰宅。

3.21（水）朝6時頃父親が、2階の別室で寝ている患児がいない事に気づき、庭に出てみると患児が芝生の上を裸足でうろろと歩いているのを発見した。会話は可能だが、ぼーっとしていた。患児は、2階窓から瓦屋根に出たらしく、飛び降りる瞬間意識が戻り、ベランダのパイプに手をかけたことは覚えているが、どのように落ちたかは記憶にない。また、部屋で壁に頭をがんがんぶつけたことは記憶している。尿失禁があったが、けがは全くなし。その時、熱は測っていないが、38度くらいはあった。その後眠り、昼には意識清明になった。この間、薬は解熱剤も含め一切服用していない。

3.23（金）再診。38度前後が持続し、咳が出てきた。咳の薬を処方し、まだ熱があるので同じ部屋で寝るように指示し帰宅。

3.24（土）には解熱して、以後特に問題なし。

今回の事例は、タミフルの服用がないインフルエンザ患児でも、飛び降りと言う異常行動をき

たすことがあるという貴重な症例と考え、報告することにしました。また、3.17に同様なケースが川崎医大で報告されています（読売新聞）。これは、同じく14歳の男児で、2階から飛び降り、骨折をして川崎医大に入院後にインフルエンザBと診断されたが、タミフルは飲んでいなかったという症例です。

この2件の症例より横浜市小児科医会では、インフルエンザではタミフル服用の有無に関わらず、飛び降りという異常行動が起こりうることを認識し、インフルエンザの小児患者の親はタミフルの服用の有無に関わらず、患児と同じ部屋で寝る等、目を離さないこと、異常行動があった場合は至急かかりつけ医に報告することが重要であると考えます。

平成19年3月28日

横浜市小児科医会会長 水野恭一

平成19年3月29日

会員各位

横浜市小児科医会
会長 水野恭一

緊急連絡

時下、益々清祥のことと拝察申し上げます。

さて、本会会員の医療機関より、インフルエンザ患者がタミフルを服用せず、異常行動を起した事例が裏面のとおり報告されました。本件につきましては、3月27日開催の本会役員会にて報告され、マスコミ関係にも報告するよう提案がございました。

このことを受けまして、本日、緊急の記者会見を行いましたので、ご報告申し上げます。

つきましては、今後、各医療機関におかれましては、患者の親に対してタミフルの服用の有無にかかわらず、患者から目を離さないこと、異常行動があった場合は至急かかりつけ医に報告することが重要であることを周知いただきたくよろしくお願い申し上げます。

併せて、本会事務局までご一報頂きたく、重ねてお願い申し上げます。

事務担当：横浜市医師会事業二課（若杉）
TEL：045-201-7363（直通）
FAX：045-201-8768
E-mail：wakasugi@yokohama-med.or.jp

14歳、2階から転落

インフル タミフル服用せず

栄区

インフルエンザ治療薬を離さないように」と呼ぶ「タミフル」と異常行動をめぐり、横浜市小児科医会（水野恭一会長）は二十九日、インフルエンザにかかった横浜市内各区の医療機関を受診、インフルエンザB型と診断された。症状が軽かったため医師から解熱剤の処方を受け帰宅、二階から転落する異常行動がみられたと発表した。

インフルエンザ治療薬を離さないように」と呼ぶ「タミフル」と異常行動をめぐり、横浜市小児科医会（水野恭一会長）は二十九日、インフルエンザにかかった横浜市内各区の医療機関を受診、インフルエンザB型と診断された。症状が軽かったため医師から解熱剤の処方を受け帰宅、二階から転落する異常行動がみられたと発表した。

インフルエンザにかかった男子中学生（14）が自宅2階から飛び降りたことと発表された。けがはなく、インフルエンザ治療薬「タミフル」は服用していなかったという。

異常行動 4日に専門家会合

厚労省 全報告事例分析へ

インフルエンザ治療薬を離さないように」と呼ぶ「タミフル」と異常行動をめぐり、横浜市小児科医会（水野恭一会長）は二十九日、インフルエンザにかかった横浜市内各区の医療機関を受診、インフルエンザB型と診断された。症状が軽かったため医師から解熱剤の処方を受け帰宅、二階から転落する異常行動がみられたと発表した。

インフルエンザ治療薬を離さないように」と呼ぶ「タミフル」と異常行動をめぐり、横浜市小児科医会（水野恭一会長）は二十九日、インフルエンザにかかった横浜市内各区の医療機関を受診、インフルエンザB型と診断された。症状が軽かったため医師から解熱剤の処方を受け帰宅、二階から転落する異常行動がみられたと発表した。

インフルエンザにかかった男子中学生（14）が自宅2階から飛び降りたことと発表された。けがはなく、インフルエンザ治療薬「タミフル」は服用していなかったという。

「視点欠けていた」

厚労省 調査不足認める

タミフル 異常

インフルエンザ治療薬「タミフル」の服用と「異常行動」の因果関係を巡る問題、厚生労働省の辻哲夫・事務次官は29日の定例会員で（副作用として報告があった）異常

行動の中身を見る視点が欠けていたと話し、死亡例以外を調査しなかった方法に問題があったことなどを初めて認めた。タミフル服用後、異常行動を起した9歳女児がインフ

ルエンザではないとの検査結果が出たことについて「極めて重大な問題」と考えていると話した。

また事務次官は年間3万件の副作用情報を少ない担当で処理している問題の解明を促している

きた」と述べた。厚労省は04年6月、医薬品安全性情報でタミフルの重大な副作用として異常行動を公表後、今年2日に飛び降りた転落に限定した異常行動の調査結果を発表するまで、死亡例以外は分析していなかった。【玉木達也】

インフルエンザ感染の中学生飛び降り、タミフル服用せず

横浜市小児科医会は29日、同市栄区でインフル

いた男子がいないため父親が外に出たところ、男子は庭の芝生の上を裸足で歩いていた。男子は「ベッドからどう落ちたか記憶がない」と話したという。

同医会によると、男子は19日に38度の熱を出し、20日に近くの病院でインフルエンザB型に感染していると診断された。症状は軽く、解熱剤（アセトアミノフェン）のみ処方され帰宅した。21日午前6時ごろ、2階で寝て

同医会は事例として横浜市立大を通じ厚生労働省に報告した。水野恭一会長は「インフルエンザはタミフル服用の有無にかかわらず、異常行動を起す。異常行動は至急医師に報告を」と呼びかけた。【足立旬子】

インフル14歳男子 自宅2階から転落

「タミフル服用せず」

横浜市栄区の医院でインフルエンザと診断された中学2年の男子生徒(14)が、自宅2階から転落していたことが29日、わかった。厚生労働省が10歳代への使用中止を求めたインフルエンザ治療薬「タミフル」は服

用していなかった。けがはなかったが、意識が一時もろろとした状態だった。横浜市小児科医院による

と、男子生徒は38度の熱を出し、20日に個人医院でB型インフルエンザと診断された。症状は軽く、医師は解熱剤アセトアミノフェンだけを処方した。

21日朝、2階の部屋で男子生徒が寝ていないことに父親が気づき、捜したところ、庭をはだして歩いていくところを見つけた。状況などから2階から落ちたとみられる。

市小児科医院は厚労省に報告した。同様の異常行動は、17日にもタミフルを服用していない14歳男子生徒が自宅2階から飛び降りて足を骨折したケースが明らかになっている。

タミフル飲まず異常行動

インフル感染
少年の例発表

横浜市小児科医院は28日、インフルエンザにかかった横浜市栄区の中学2年の少年(14)が自宅の2階から飛び降りたとみられる異常行動があったと発表した。抗インフルエンザ薬「タミフル」は飲んでいなかった。小児科医院は「インフルエン

タミフルを飲んでいなくとも、1人にしないなどの対策が必要」と注意を呼びかけている。

小児科医院によると、少年は今年20日に病院でインフルエンザB型陽性と診断され、解熱剤を処方された。翌21日午前6時ごろ、2階の寝室に少年がいないことに父親が

3/30 (金) 朝日新聞

3/30 (金) 読売新聞

未服用でも異常行動

「タミフル」
市内の
中学生
市小児科医院が注意喚起

横浜市小児科医院(水野恭一会長)は二十九日、市内でインフルエンザウイルスに感染した男子中学生(14)が治療薬「タミフル」を服用していないにもかかわらず、自宅屋根に上り転落するといった異常行動を示す事例があったと発表した。男子生徒にけがはなかったが、同医院では「服用の有無にかかわらず、保護者は子供の患者から目を離さないほしい」と注意を呼びかけて

いる。同医院によると、男子生徒の父親は二十一日午前六時ごろ、部屋で寝ているはずの男子生徒がいなくなったため捜したところ庭をはだして歩いているのを見つけた。

男子生徒は転落する直前に、壁に頭を打ち付けたことや二階窓から屋根に上り、飛び降りる瞬間に意識が戻ったためベランダのパイプに手をかけたことは記憶していたが、どのように転落したかははっきりしない様子だったという。

男子生徒は十九日に発熱し、二十日に医師からB型インフルエンザウイルスに感染していると診断されたが、タミフルは処方されず、解熱剤をも

らって帰宅した。水野会長は「インフルエンザは高熱が続き合併症もある。総合的に判断しタミフルを使いたいというのが会員の意見。異常行動はインフルエンザ自体で起る」との見解を述べた。同医院は横浜市立大を通して事例を厚生労働省に報告したという。

(木村留美)

3 / 30 (金) 東京新聞

第21回横浜市産婦人科・小児科研究会

平成19年2月2日

「低出生体重児を巡る周産期の問題」

—IUGR(子宮内胎児発育遅延)—出生前の管理 出生後の諸問題」

神奈川県立こども医療センター産婦人科
医長 石川浩史

該当する妊娠週数の出生児の標準体重と比較して、出生体重が10パーセント未満の新生児をlight for gestational age infant (LGA) 児と称しています。LGA児は周産期死亡率・精発達遅延の発症率ともに非LGA児より高率であることが知られています。

一方、妊娠中の胎児推定体重が、該当週数胎児体重と比較して明らかに小さい場合を、子宮内胎児発育遅延 (IUGR) と一般的に呼んでいます。しかしその基準は混乱しており、またそもそも胎児推定体重には一定の誤差を伴います。IUGRとは「LGA児となる可能性が高いのでハイリスクとして扱うべき妊婦・胎児」ということになります。

IUGRをめぐっては、診断にしても管理にしても、数多くの問題点が存在します。当センターでの症例 (とくに重篤なIUGR症例) の予後を提示するとともに、以下の問題点について考えてみたいと思います。

1) IUGRのスクリーニングと診断

- ・スクリーニングとして適切な方法は。
- ・基準値は何を用いれば良いか。
- ・疑った場合、どれくらいの間隔で再検査すればよいのか。
- ・どのような症例を精査・紹介に回せばよいのか。

2) IUGRの精査と管理

- ・IUGRの原因には何が多いか。
- ・どのような検査を行えばよいか。
- ・IUGRの母体内治療は有効か。
- ・胎児健常性検査としてはどのような検査を行うか。
- ・何を基準に娩出を決定するのか。

神奈川県立こども医療センター副院長
新生児科部長 猪谷泰史

出生数の減少にもかかわらず、低出生体重児の出生率は年々増加している。出産年齢の高齢化と高齢化に伴う平均出生体重の減少を考慮すると、IUGR児は年々増加していると考えられる。全国的に極低出生体重児の救命率は上昇しているが、救命率は在胎週数よりも・出生体重と関連が深く、1000g未満のIUGR児の救命は難しく、合併症も多く長期予後にも不良な児が多い。IUGR児は予備能が少なく、胎児新生児仮死・低血糖・低体温・多血症・嘔吐・胎便吸引症候群などの適応障害をおこしやすい。2000g以上のIUGR児の正常新生児室での管理には十分な注意が必要となる。

会長 水野 恭一

矢崎前会長の後を引き継いで、横浜市小児科医会会長を拝命しもうすぐ2年になろうとしています。何もわからずただ目の前の問題を片付けるだけで、会員諸氏のために役に立ったのかどうか疑問を感じ、申し訳ない気持ちでいます。

ただ私に課せられた仕事の一つである小児科領域での行政とのパイプはいくらか繋がってきたことは感じています。特に健康福祉局保健医療部とは、小児科領域での相談事がいくらか来るようになり、こちらからもいくつかの提案をさせて頂きました。結果として実を結んだものの数は少ないですが、地域小児科医会と行政が関係を密にすることは市民にとって有意義なことと思われま

す。私事で大変恐縮ですが、諸般の事情により2月中旬に都筑区の会長に就任することが決まり、規定により小児科医会会長を辞任することになりました。突然のことで次の会長が現時点で決まっていなくてもかかわらず、会員諸氏にこの医会通信でご報告することをお許しください。3月末の小児科医会全役員会では、次期会長候補を提案できると思います。

今後の小児科医会にとっての問題は数多くあります。禁煙問題・虐待問題・予防接種・感染症対策……これらは専門職集団である小児科医会の中にエキスパートがおり時間がかかっても着実に問題が解決されると期待されます。しかし小児救急問題は市民にとって一番ニーズが高く急を要するにもかかわらず、それ自体が不採算部門であること、そして数が少ない小児科医が実務者として出勤を要求されることから問題がこじれています。

以前にも書きましたが、横浜市は桜木町夜間急病センターの深夜診療を廃止し指定管理者制に移行させ、また新たに南部方面夜間急病センターを設置しようと考えています。

桜木町夜間急病センターは、結果としてその運営が横浜市総合保健医療財団から指定管理者としての横浜市病院協会に移行しましたが、横浜市医師会は赤字事業である夜間急病センターの運営に、赤字が出ると困るからという理由で立候補しませんでした。

このことで小児科医会の会員が影響を受けたことは、横浜市医師会から出勤抑制の要求が出たことで出勤できなくなり、出勤していることを免罪符として自院の患者さんに夜間は急病センターで診てもらうように言えなくなった会員がいることです。やはり横浜市医師会で運営してもらいたいと考えます。

南部方面夜間急病センターに関しては問題が複雑で、365日毎夜間の準夜帯に初期救急医療を提供し、結果として入院患者も受け入れるということで南部方面の病院に夜間急病センターを設置する案が考えられています。それには外来診療に当たる医師と病棟での入院患者の診療に当たる医師を区分し、かつそれぞれ複数の体制が必要で、小児科医は確保が難しいので病院の常勤医は病棟での入院患者を中心に、外来診療については病院勤務医とともに地域の開業医が診療に当たるのが望ましいと考えられています。

しかしこの体制では、運営主体は病院でその病院への開業医の出勤についての位置づけや診療報酬の取り扱いなど運営体制上の課題があり、かつその病院の電子カルテやオーダーリングシステム等を出動開業医が取り扱えるのかどうか問題になります。

今後益々小児科医会に対する期待が高まる時代になって行きますので、会員皆様の新体制に対するご協力をお願いし、最後の医会通信とさせていただきます。

区会だより

都筑区小児科医会

昭和大学横浜市北部病院小児科との連携勉強会を年4回のペースで開催している。今年度下半期に開催された例会は以下のとおりである。

第5回 平成18年10月13日

「小児の市中呼吸器感染症と耐性菌の現状—変貌する原因微生物」

北里生命科学研究所・感染防御科学府

生方 公子教授

第6回 平成18年12月8日

「小児気管支喘息をめぐる話題

—テオフィリンを中心に—」

埼玉医科大学小児科 小田嶋 安平教授

第7回 平成19年2月9日

「今日から使える急性・劇症心筋炎の診断ポイント」

こどもの木クリニック（都筑区）

百々 秀心先生

また、区小児科医会主催の学術講演会は予報の通り、よくある感染症をテーマに、保育関係者も招いて行った。

「日常よく遭遇する小児の感染症について—その状況や予防、対応など—」

国立感染症研究所・感染症情報センター長

岡部 信彦先生

（文責 殿内 力）

東部小児科医会

昨年暮れに幹部会を開き、横浜労災病院郡副院長、城小児科部長、事務方と病診連携、協力事業につき話し合いの場をもった。開業医の時間的制約、負担など配慮して双方前向きに今後も協力していくことで、とりあえず合意に至った。今後、済生会横浜市東部病院の開院もあり、この東部小児科医会も例えば労災、済生会で順番に開催するなど、いままでとは形を少し変えて運営していく方針であ

る。本会も丁度この3月8日の研修会で第50回を迎えた。これを機に、11年会長職を勤めた中野から鶴見地域の古谷先生にバトンタッチすることになった。今後も古谷新会長のもとに会員一丸となって、親睦、研修会などを積極的に行いながら、地域の小児医療の充実に励んでいくつもりである。

（会長 中野 康伸）

中区小児科医会

半年毎に発刊される機関誌に小児科医会の情報を書き始めて5回目となります。中区では小児科医に役立つ最新の情報を主として近隣の病院の先生方を講師にお迎えし講演をしていただいております。今回はその講演会を1回も開催できませんでした。中区では小児科のスタッフがいる病院は、みなと赤十字病院唯一つになってしまいました。横浜市立港湾病院・横浜赤十字病院・横浜中央病院の三つの病院にそれぞれ数名の小児科医が在籍され、各病院に患者さんを紹介できて、他区に比べ開業医にとっては恵まれた環境のはずでした。いまや、小児科医のみならず、産婦人科医も、病院にも、開業医にも中区では減っているのが現状です。

また、私共一般開業医には理解し難い事情で、桜木町の夜間救急診療所の診療時間の変更があります。諸般の理由で、日中はとにかく時間外診療に対して唯一の病院となったみなと赤十字の小児科医の先生方は本当にご苦勞をなさっているようです。開業医においても、ご多分にもれず高齢化が進んでいる反面、小児科医新規開業はここ数年で1名です。時間外診療の問題について中区小児科医会としてどのように対応すべきか協議の場を設けて種々なご意見をいただきましたが全員一致の見解が得られず、今日に至っております。次号にはもっと元気な中区小児科医会事情をお届けできるとよいと願っております。

（文責 山崎 康子）

南部小児科医会

平成18年度下半期の事業内容をご報告いたします。

●拡大幹事会

平成18年10月24日（水）午後7時、
於 関内、石開

●定例研修会

平成18年11月29日（水）午後7時～9時
於 県立汐見台病院5階会議室

共催 帝人ファーマ株式会社

講師：栗原 まな先生（神奈川県リハビリテーション病院）

演題：インフルエンザ脳症について（小児リハ専門医からのメッセージ）

●平成19年新年研究会、懇親会

平成19年2月3日（土）

於 キャメロットジャパン

共催 小野薬品工業株式会社

講師：栗原 和幸先生（神奈川県立こども医療センターアレルギー科部長）

演題：「小児気管支喘息のUp to Date」

●その他

済生会横浜市南部病院が平成18年8月から地域連携小児夜間・休日診療を開始しました。当医会の会員6名が有志として参加しています。今のところ、一人月1回、病院が救急輪番当番日の準夜帯に、病院の救急診察室で一次診療を担当しています。病院勤務医の過酷な勤務状態を改善するにはまだまだ不十分ではありますが、病院にとっては経営的なメリットも大きいようで感謝されています。今後の一つの方向性を示す試みだと思えます。

（文責 森 哲夫）

南西部小児科医会

当支部内の研究会や講演会は以下のようにした。今回、戸塚区から栄区、泉区が区分して20年、初めて南西部小児科医会として学術講演会を行いました。

横浜市南西部小児科医会学術講演会

日時：平成18年10月21日（土）18：00～

場所：キャメロットジャパン

特別講演Ⅰ 座長 小泉小児クリニック

小泉 友喜彦先生

『横浜市小児救急拠点病院構想と横浜医療センター小児科の現状』

独立行政法人国立病院機構

横浜医療センター 小児科部長

鍋木 陽一先生

特別講演Ⅱ 座長 嶽間沢医院

嶽間沢 昌和先生

『新しい小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2005について“吸入ステロイド薬使用経験”』

すぐろこどもクリニック 院長

勝呂 宏先生

（文責 嶽間沢 昌和）

西部小児科医会

平成18年9月14日（木）に、ホテルキャメロット・ジャパンにおいて、第3回の西部・東部合同小児科医会を、西部医会の当番で開催いたしました。

講師には慶應義塾大学小児科学教室講師の渡辺久子先生をお招きして「現代社会と子どもの心身の発達」というテーマで講演をしていただきました。母と子の相互作用など興味あるお話をうかがうことができ感銘を受けました。出席者46名と大変盛況でした。

平成19年度の西部小児科医会の総会と研修会は、昨年と同様に5月の後半に開く予定にしております。

（文責 大西 三郎）

戸塚小児科医会

＝ 庶 務 報 告 ＝

戸塚区：第16回小児疾患研究会

日時：平成18年11月21日（火）

19：30～21：00

場所：横浜西部総合保健センター

1. 『H.pyloriによる十二指腸潰瘍で狭窄を来たし，外科的手術を必要とした1例』

国立病院機構横浜医療センター小児科
榎本 聡子先生

2. 『頭蓋骨骨折を認めた虐待児の1例—その初期対応』

国立病院機構横浜医療センター小児科
平井 綾先生

3. 『インフルエンザ脳症の診断』

国立病院機構横浜医療センター小児科
小林 慈典先生

4. 平成18年4月以降の入院統計・病診連携報告

国立病院機構横浜医療センター小児科
鍋木 陽一先生

次回は第17回小児疾患研究会

日時：平成19年3月27日（火）

19：30～21：00

場所：横浜西部総合保健センター

の予定です。

（文責 嶽間沢昌和）

1. 研修会

H18. 10. 27（金）

於 ブリーズベイホテル 出席者33名

講演：「藤沢市の小児救急医療について」

講師：藤沢市民病院 小児科部長

船曳 哲典先生

2. 常任幹事会

H18. 9. 15（金）

於 市医師会会議室 出席者15名

H18. 12. 1（金）

於 桃源 出席者12名

3. 役員会

H19. 3. 27（火）

於 桃源 出席者27名

4. 第21回産婦人科・小児科研究会

H19. 2. 2（金）

於 ブリーズベイホテル 出席者62名

（小児科24名）

講演：「低出生体重児を巡る周産期の問題－IUGR（子宮内胎児発育遅延）－出生前の管理 出生後の諸問題」

講師：神奈川県立こども医療センター

産婦人科医長

石川 浩史先生

副院長・新生児科部長

猪谷 泰史先生

5. 広報活動

H18. 10. 1（日）

小児科医会ニュース 第33号発行

6. その他

☆「小児救急のかかり方」パンフレット内容検討委員会

H18. 5. 11（木）

於 市医師会会議室

出席者 役員6名，行政2名

H18. 7. 19（水）

於 市医師会会議室

出席者 役員3名，行政3名

※学術功労者

○平成17年度横浜市医師会学術功労者表彰

小林 幹子先生

○平成18年度横浜市医師会学術功労者表彰

八木 禧昭先生

お二人とも、受賞おめでとうございます。

(庶務 大西 三郎)

横浜市小児科医会会計の中間報告を申し上げます。

中間報告 H18. 2. 28現在

現在高	3,120,727円
(内訳) 現金	104,307円
郵便貯金	1,244,087円
医師信用組合	1,772,333円
△未払分(交通費)	(290,000円)

(会計 小林 幹子)

会員動向(平成18年10月～平成19年3月)

入会 2名

〒223-0059 港北区北新横浜1-2-3 三橋ビル1F カンガルーこどもクリニック TEL 045-309-0755 田中 昌明
〒224-0007 都筑区荏田南3-1-7 こどもの木クリニック TEL 045-947-1888 百々 秀心

退会 5名

区名	氏名	備考
栄区	大矢 正義	
金沢区	青柳 愛孝	
金沢区	山田 卓男	H18. 8. 8ご逝去
旭区	高橋 重晴	H18. 11. 12ご逝去
金沢区	杉本 重登	H15. 2. 1ご逝去

異動 2名

宇野 律子 異動事項:勤務先変更 〒230-0001 鶴見区矢向1-6-20 (財)横浜勤労者福祉協会汐田総合病院 TEL 045-574-1011
草野 真郎 異動事項:自体会員 〒248-0013 鎌倉市材木座3-16-11 TEL 0467-22-7410

会員数:285名(平成19年3月31日現在)

編集後記

もはや異常気象と言ってよい暖冬のせいで、今年のインフルエンザの流行は例年より1ヶ月遅れてやって来た。

そして、あのタミフルの問題。厚労省の見解は現場の混乱を考慮しない、国の責任を回避することが目的のExcuseに過ぎないと腹立たしい思いが強い。

であるから、今回、当医会が「タミフル未使用患者の異常行動発生事例報告」の記者会見を積極的に行なったことには、非常に大きな意義があると思う。

事実を正しく認識し、経験を積み重ねて行く以外、この問題が解決することはないのだ……。

(文責 大川 尚美)

2007年4月1日発行
横浜市小児科医会ニュース No. 34

題字 五十嵐鐵馬

発行人 横浜市小児科医会
代表 水野 恭一

編集:横浜市小児科医会広報部
事務局:〒231-0062

横浜市中区桜木町1-1
横浜市医師会:事業二課
Tel 201-7363